

土曜

秋葉

2018年(平成30年)10月24日

水曜日

初の代表「結果残す」

秋葉海人さん(常総)

アンプティサッカーW杯へ



アンプティサッカーの日本代表に選ばれた県立石下紫峰高1年の秋葉海人さん

4歳の時に交通事故に遭い、右足の足首から下を切断した県立石下紫峰高1年の秋葉海人さん(15)は、常総市崎房Ⅱが、四肢に障害のある選手がプレーするアンプティサッカーの日本代表に選ばれ、27日からメキシコで開催する「アンプティサッカーワールドカップ(W杯)」に出場する。昨年から試合で得点を重ねて急成長、代表に初選出された。「自分の特徴はスピードとアウトサイドシュート。W杯では得点できるように頑張りたい」と意気込んでいる。

秋葉さんは4歳の時に自 宅近くでトラックにはねられ、右足の足首から下を切断。義足を装着して日常生活の事故に遭い、利き足で「活を送っている」。

メキシコ開幕 得点重ね急成長

27日開幕

サッカーは小学4年から始めた。中学1年の時に一度は断念したものの、体験イベントで知ったアンプティサッカーの魅力にはまり、「もう一度サッカーをやろう」と決意。中学2年の冬、東京都稲城市の強豪クラブ「FCアウボラ」に入団した。

普段は使わない2本の杖を用いてプレーするので、始めた当初はいつも両腕がばんばんになった。それでも、持ち前の運動神経の良さから、めきめき上達し、昨年11月の日本選手権で4試合で5得点、今年5月のカップ戦も4試合で3得点を決めた。

W杯を目標に練習を重ね、今回念願の代表入りを果たした。「あと2年はかかると思っていたので、正直驚いた」と秋葉さん。「海外の選手は体格が大きいので、日本はサイドを使って相手を崩すのがうまい。チームの目標であるベスト4を目指し、結果を残したい」と力を込める。

秋葉さんの成長を同じく

アンプティサッカー 下肢に障害のある選手が杖を使い足一本でボールを蹴り、上肢に障害のある選手がゴールキーパーを務める7人制サッカー。国内では現在9チーム約90人の選手がプレーしている。W杯は1998年から開催されており、日本が出場するのは今回が4度目。

ラブのチームメイトも喜んで「と期待する。念願を果たした秋葉さんだが、もう一つ目標がある。アンプティサッカーをもっと多くの人に知ってもらいたい。W杯の経験は彼をひと回り大きく成長させるのは「杖一本で体を支えてボ

レーションを打つなど、健常者と変わらないフィジカルの強さは、プレーを見た人なら誰もが驚く。自分の光るプレーで観客を魅了したい。秋葉さんは飛躍を誓う。

W杯は27日、メキシコ・サンフアンデロスラゴス市で開幕。日本は1次グループでコスタリカ、クロンヒア、ポランドと対戦する。

(今橋憲正)

株式会社茨城新聞社の許諾を得て掲載しています。

無断での転載・流用はご遠慮ください。